



3:12 そうすると、イスラエル人はまた、主の目の前に悪を行なった。彼らが主の目の前に悪を行なったので、主はモアブの王エグロンを強くして、イスラエルに逆らわせた。
 3:13 エグロンはアモン人とアマレク人を集め、イスラエルを攻めて打ち破り、彼らはなつめやしの町を占領した。
 3:14 それで、イスラエル人は十八年の間、モアブの王エグロンに仕えた。
 3:15 イスラエル人が主に叫び求めたとき、主は彼らのために、ひとりの救助者、ベニヤミン人ゲラの子で、左ききのエフデを起こされた。イスラエル人は、彼を通してモアブの王エグロンにみつぎものを送った。
 3:16 エフデは長さ一キュビトの、一振りのもる刃の剣を作り、それを着物の下の右ももの上の帯にはさんだ。
 3:17 こうして、彼はモアブの王エグロンにみつぎものをささげた。エグロンは非常に太っていた。
 3:18 みつぎものをささげ終わったとき、エフデはみつぎものを運んで来た者たちを帰らせ、
 3:19 彼自身はギルガルのそばの石切り場から戻って来て言った。「王さま。私はあなたに秘密のお知らせがあります。」すると王は、「今、言うな。」と言った。そこで、王のそばに立っていた者たちはみな、彼のところから出て行った。
 3:20 エフデは王のところへ行った。そのとき、王はひとりで涼しい屋上の部屋に座していた。エフデが、「私にあなたへの神のお告げがあります。」と言うと、王はその座から

立ち上がった。

3:21 このとき、エフデは左手を伸ばして、右ももから剣を取り出し、王の腹を刺した。
 3:22 柄も刃も、共にはいつてしまった。彼が剣を王の腹から抜かなかったので、脂肪が刃をふさいでしまった。エフデは窓から出て、
 3:23 廊下へ出て行き、王のいる屋上の部屋の戸を閉じ、かんぬきで締めた。
 3:24 彼が出て行くと、王のしもべたちがやって来た。そして見ると、屋上の部屋にかんぬきがかけていたので、彼らは、「王はきっと涼み部屋で用をたしておられるのだろう。」と思った。
 3:25 それで、しもべたちはいつまでも待っていたが、王が屋上の部屋の戸をいっこうにあげないので、かぎを取ってあげると、なんと、彼らの主人は床の上に倒れて死んでいた。
 3:26 エフデはしもべたちが手間取っている間にのがれて、石切り場の所を通り過ぎ、セイラにのがれた。
 3:27 エフデは行って、エフライムの山地で角笛を吹き鳴らした。すると、イスラエル人は彼といっしょに山地から下って行き、彼はその先頭に立った。
 3:28 エフデは彼らに言った。「私を追って来なさい。主はあなたがたの敵モアブ人をあなたがたの手に渡された。」それで、彼らはエフデのあとについて下って行き、モアブへのヨルダン川の渡し場を攻め取って、ひとりも渡らせなかった。
 3:29 このとき彼らは約一万人のモアブ人を打った。彼らはみなたくましい、力ある者たちであったが、ひとりも助からなかった。

3:30 このようにして、モアブはその日イスラエルによって征服され、この国は八十年の間、穏やかであった。

3:31 エフデのあとにアナテの子シャムガルが起こり、牛の突き棒でペリシテ人六百人を打った。彼もまたイスラエルを救った。

イスラエルは平穩であることによってまた神を忘れて、その結果苦難を招きました。エグロンを打ったエフデは左利きですが、それは右手が使えなかったことを意味します。その弱さがむしろ神様に用いられたのです。通常とは反対側に剣を隠していたので疑われずにたやすく王に近づくことができました。シャムガルもまた牛の突き棒という粗末な武器しかありませんでしたが、それでも主によって用いられて勝利を得たのです。主の勇士は初めは弱者であったことに心を留めましょう。謙遜に主のために立ち上がりましょう。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？

